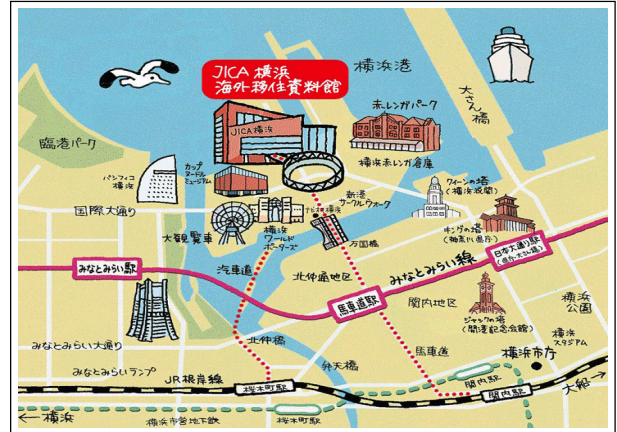


# 国際協力の現場を語る

JICA(ジャイカ:国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア(40歳~69歳)を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違った貴重な体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時:毎月第3水曜日 15時30分~17時  
 会場:JICA横浜 1階会議室または4階セミナールームなど  
 会費:無料(どなたでも自由に参加できます)  
 主催:NPO法人「シニアボランティア経験を活かす会」  
 後援:JICA横浜  
 (やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日  
 Fax:045-663-3263 担当:森岡 潔 (046-849-9938)  
 URL jicasvob.com E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国(講師名)		「タイトル」 講演概要
第159回 12月19日 (水) エチオピア (西田 尚)		「念い(おもい)は続くよ、どこまでも」 平成8年に青年海外協力隊員としてアフリカのエチオピアに赴任した私、当時28歳でした。地球環境保全に携わりたい思いから植林支援という要請内容のエチオピアを希望し、見事に切符を勝ち取ったのですが、そこで待っている活動は決して満足いくものではありませんでした。そんな思いの中で過ごした2年間、現地で何ができたのか、残せたのか、それは20年後の2018年のエチオピア訪問で知ることになります。そんな体験をお話します。
第160回 1月16日 (水) サモア (宮崎 博)		「サモアの特別支援学校・高等部における活動」 サモアの首都アピアにある私立の特別支援学校で、高等部の生徒を対象に、「職業訓練」を中心に据えて活動に取り組みました。学校外では、工場やスーパーマーケットで生徒の社会実習を実施しました。学校内では、畑作り、野菜栽培、堆肥作りなどの他に、織物、料理、体操、ハンドベルによる合奏などを行い、様々な形で成果を上げることができました。
第161回 2月20日 (水) ミャンマー (梅崎利通)		「命を捧げて、命の限り、ミャンマーの患者のために生きた日々」 ミャンマー最大の病院であるヤンゴン総合病院のリハビリ科において、この国でまだ医療職として養成がなされていない作業療法(OT)を医師と理学療法士(PT)に教授すると共に、入院と外来部門で直接患者を治療しました。同時に「真の」ボランティアとして在宅障害者の訪問リハビリを実践し、かつモバイル・クリニックに参加して多くの無医村を訪れました。その「悪戦苦闘」ぶりをお話します。
第162回 3月20日 (水) アルゼンチン (中西陽典)		「アルゼンチン中小企業の支援」-意識変革と経営改善を目指して- マクリ大統領が提唱する、「アルゼンチン経済の立て直し」をうけ、アルゼンチン政府からJICAに要請された、アルゼンチン中小企業の競争力強化、生産性向上を支援するため、2016年3月から2年間ブエノスアイレスに派遣されました。派遣期間中、アルゼンチン全23州のうち15州を訪問、訪問各州の中小企業、産業団体を支援するとともに、現地の人々と交流、アルゼンチンの豊かで、多様かつ素晴らしい自然、文化、生活を知ることができました。
第163回 4月17日 (水) ザンビア (鈴木核)		「肌の色や言葉は違えど、悩みや願いはみな一緒」 どんな所かまったくわからず飛び込んだアフリカの地、ザンビア。しかし、暮らし始めてすぐ「日本と同じじゃない!」と感じるところが多々ありました。もちろん、違うところもいろいろあり、イライラしたり、もやもやしたりすることも。そんなアフリカでの活動やザンビアの人たちとの交流、大自然での出来事など、家内と過ごした2年間の体験をご紹介します。